

2016年1月13日にKP（Kobe プロジェクト、総合学習）の時間に Dr.J はかく語りき「ハワイでは誰もがマイノリティ」（<https://youtu.be/IJDCe77a7do>）という映像を見た後に対話を行った。

A：まずあのおじいさんけっこう陽気だなと思って。そうやって思ったのは、なんか結論から言うと、ソクラテスに通ずるものがあると思って。なんでかって言ったら、哲学の本を読まなきゃなあって思って、読んだ時に手に取った本で書いてあったのがソクラテスが他の男をナンパするんですよ。ナンパする時に、なんて言ってたかっていうと、例えば、結論から言うと、あくまでこの身体を使って、身体を使ってるは、この身体が君自身じゃなくて、この身体は君自身が使ってる道具で、君自身は魂の中だから別に僕はあなたのルックスとか性格とか大嫌いだけど、そんなことは関係なくってただ君のことを好きなんだ、君のこと自体が好きなんだっていうので。（周りがざわつく）ハワイの人はマイノリティでお互いのことを認め合ってるって、なんか言ってたのは、そのこういう一緒の人種の中で暮らしちゃうと、お互い同じ人に見えるっていうのに通ずるものがあるなと思って。やっぱりハワイの人たちは、それぞれの見た目っていうのを超越して、なんかこうその人自体、その人の存在自体の本質をちゃんと捉えてるんじゃないかなと思って。だから、なんか色々あの Thomas Jackson さんが言ってたことはソクラテスに通ずることがあるかなって思います。

中川：C、寒い？つけにいつてくれたら。パシリの理由を作ろうとして失敗した。（笑いが起こる）

B：Thomas Jackson さんっていうのは P4C のことを何でも理解してるって言ったら、それはそうなのかもしれないけど。でも、あの人が、あの人自身がこれを表現してるというか。これってむちゃくちゃ簡単なように見えて、ただ円にして議論してるだけっていう風には見えるんだけど。でも、その奥にはいくつもいくつも、今まで違う形でされてきた議論っていうのに対して、その欠点をすごい部分で補ってて。これってすごい単純なようであの人の考えてることは、むちゃくちゃ深いことなんだなって思いました。

C：なんかすごい Thomas Jackson さんが子どもっぽい人だなって思って。変な話なのかもしれないですけど。子ども、その本当の子どもの姿を話している時に、ちょっと盛り上がってなった時に Thomas Jackson さんの目がキラキラしてたと思うんですよ。僕もけっこう好きなことをしてる時に目がキラキラするって言われるんですけど。自分ではよく分からなくても、他の人のを見てたら、あああれって子どもっぽいっていうのか、子どもの、子どもに戻ってるっていうのか分からないけど。すごい、子どもの気持ちを持ってるのかなっていうのが見てて感想を思いました。

中川：いま一つ思い出しました。初めて会ったときに、よくこういうのをやっていると、P4C って「子どものための哲学」とかやってるじゃないですか。たいてい学者がどう反応するかというと、前に関西倫理学会で発表したときも同じやったんですけど。学者先生方はまずこう言うんですよ。で、子どもって何だって。で、哲学って何だって聞いてくるんですよ。でもまあ、それはそうなんやけどと思うじゃないですか。けっこう自分もそういうことを考えていて、初めてハワイに行ったときは、どうなんやろって思ってて。実は P4C ってい

う言葉はあんまり使いたくなかった。なんかそんな、なんかよく分からん言葉やしって思ってたんですけど。行って、この人に会った瞬間に一番最初の挨拶でP4C！（笑いが起こる）とか言ってるんですよ。そういう使い方すんねんやと思って。それ以降、使うようになったと。そういうことを今思い出しました。この人、すごい。で、あの、僕はハワイっていうのはすごいただの観光地やと思ってたので、そういうところはあんまり好きじゃないので、行かないでおこうと思ってたんですけど。行って、絶対に海に入るかって思ってたんですけど、行った瞬間にこの人がマサ、海に入ろうぜって言って、この人まず海に入っていったですよ。それにびびってしまう。オレ、水着持ってきてへんしって。日本人がいっぱいたんですけど、全員置き去りにして自分だけ海に入っていく。なかなかおもしろい人です。結局入ったんですけどね。

どうやって入ったん（笑いが起こる）

中川：結局、現地で水着を買って入りました。それ以降ほぼ上半身裸で過ごしてましたね。映像で思ったことです。戻りましょう。いま、その P4C の話になりましたが。じゃあ適当に当てます。中国の話も出てきました。

E：子どもについて話したいんですけど。まあ、なんと言うか、行き来している。先生むじゃく？（中川：無邪気やな。ignorant です）無邪気で。子どもが無邪気な心を持ってて、大人は社会で生きて行くには色々なことを考えて、ちょっと先生分かんないです。（中川：ああ、いいよ後で。）

F：えー、思ったことは。なんていうかなあ。まあ、いまさつき目かがやい……ね、ね（笑いが起こる）実際に顔を合わせたら通じ合ってるわけじゃないですか。知ってる仲間なんで。つまり（笑いが起こる）。まあ、関係ないんですけど、目が合うだけで通じ合うってことですね。（そのままやん、さつき言ってたやん）そういうことなんですよ。

G：さっきの動画を見て、さっき誰かも言ってくれたんですけど。なんか子どもっぽいついていうか。なんか大人とは思えない、ようなかんじが。さっきの動画を見て、感じ取っていて。普通の大人なら、ああいうことを言わないだろうなっていうのをなんか言ってたし、言ってる。ちょっとパスしていいですか。（中川：誰かに投げたら。）

H：さっきG君が言ってた、大人とは思えないってことで。さっきの動画の中でも仮面が全部取れるみたいな表現が出てて、そういうのはよく分かるなって思って。一番僕の中で身近な大人っていうと中川先生がいるんですけど。中川先生はさっきの休み時間中に〇〇君に持ち上げるようなことをしてて、その時に先生の目がすっごく輝いてた。（笑いが起こる）そういうのがあって、そういうことも、子どもじゃないけど自分の好きなことに真っ直ぐ向かっていくっていうのが本質で、大人って礼儀正しいとかそういうのもあるけど、それは社会で生きていくために仮面をつけて、自分を飾っていつてるってことなのかなって思いました。

I：まあ、いまちょっとほとんど言われちゃったんですけど。すごいこの人は黒人のこととか、中国人のこととか色々言ってたけど、結局伝えたいことって。こういう話があつてねって言ってたけど、それは前提で、本当に伝えたいのは最後テンション上がったとこやと思うんですけど。まあ、そのなんかその、表現することが、けっこう大事なんかなって思って。哲学とかそういう硬い話を自分たちの頭の中で描いていて、それを考えていて文章に表せたとしても、それをやっぱり誰かに伝えないとダメなんかなって思って。で、そのさっき1分間の見つめ合いのやつがあつたけど<sup>1</sup>。正直、むっちゃむずいかなって思って。普通に自分で自分なりに表現することはできても、けっこう他の人と、他の人と接するってなるとけっこうそういうのって難しいんかなって思って。その中で子どもっていうのは、確かに僕らはだんだんと子どもから離れようとしてるから、今はたぶん微妙な時期なのかなって思ったけど。そのさっきもH君が言ってくれたように大人になろうとすると他の人の目線とかそういうのも考えるようになってきて、自分を表現できなくなってるんじゃないかなって思って。その中で、さっきの Thomas さんが言ってくれたように、子どもみたいにしっかりと表現するとか、明るく表情にするとか、その瞳の奥を見るとか、そういうことをしていくっていうのは改めて大事なんだなって思いました。

J：その仮面の話が出てきたんですけど。僕もそう思ったんですけど。仮面をとるとか、仮面をつける話なんですけど。瞳の奥じゃない、それ以外のものを仮面って表現してて、その仮面を取ることで本当に相手を知れるっていうのは確かになんとなく、聞いてりゃ分かるような気もしますけど。実はそれすごい、実は難しいことで、確かに自分は正直、全部仮面を取った、全部仮面を取った姿で目の奥を見るだけで、あんなことできずに仮面の善し悪しに頼ってしまう部分もあるんで。だいたい、なんというか恐ろしく深いような、と思って。また、子どもの無邪気さとか純粹さってことも言ってたんですけど、たぶん子どもの仮面の少なさっていうことを意味していると思うんで、その仮面を自ら少なくしようとしているっていうのは、すごい流れに逆らう感じで、すごいなんか深い話だなって思います。

K：さっきの話を聞いていて、ハワイでマイノリティでいたっけ？（中川：マイノリティ）マイノリティと反対はなんでしたっけ？（中川：マジョリティ）マイノリティがハワイでしたっけ？（中川：マジョリティが多数派なんですよ。マイノリティが少数派。）で、マイノリティで少数派って、案外自分はたくさん意見があつて対立しあうことが多いかなって思ってたんですけど。案外そっちのほうが、表現を変えらるとつまらないっていうことであるって分かって。そうなってくると僕ってけっこう、なんていうかけっこう議論って考えが固まるじゃないですか。P4Cとかやっても、なんかみんな同じような意見を並べて言っているようなもんだし、そういうのって自分自身でも議論としてはつまらないと思うんですけど。でも、議論としては一つの正解が、まあみんな共通して出るから。議論としては成功なんだけど。人間の本質的なものを見る手段としてはつまらないものだなっていうのが分かって、あと、今話を聞いていて思ったんですけど。となると、僕

---

<sup>1</sup> Dr. Thomas Jackson の話に瞳を合わせるということが言われていたので、試しに1分間隣の人と瞳を合わせ続けてもらった。

らが生まれているこの本当に無邪気に子どもの頃の、子どもって本当に可能性が大きいなっていうのをすごいこの中で感じていて。子どもって無邪気に遊ぶって、E君が言っていたことでもあるし、瞳の奥を見たり、こうなんていうんでしょう。人の内面、内面を導き出すのがうまいっていう風なかんじを出すのがうまいってかんじのがあったのが、あるっていう風に自分自身も思い出さされて確かに大人の世界って言ったら確かにH君の言葉を借りるんですけど、仮面をつけた大人ばかりだし、まあつまらない世界だなんて思いました。

B：さっきのあの子どもみたいやっていう話に戻るんですけど。その子どもっていうのは純粋に素朴な疑問っていうのもって、それが無邪気だから生まれるものなのかなっていう風に思って。無邪気で単純だからこそ核心を突いてくる問いというか、なんでこうなるんやろっていうような、そういう疑問があるから、子どもってすごいかなって思って。だからその、逆にいま、僕の話にはなるんですけど。その、議論とかするときには司会やって、なんか、なんかそういう硬い意見というか、難しい意見とかっていうのが偏ってきたときに、誰かが持っている素朴な疑問というか、子ども、子どもっぽいって言ったら失礼かもしれないけど。そういう疑問っていうのは、大きく議論の形とか、流れとかをガラって変えてくれるんで、そういう意味ではあの人には子どもっぽい疑問とか、無邪気な考え方っていうの捨ててない。ずっといまだに残ってるから、そういう意味ではすごい人なんやなって。

A：やっぱり、あの人には摩擦みたいなものが、僕たちと全く違ってかかってないと思って。仮面を作る原因っていうのも、他の人と違いたくない。違ってしまったらそこで摩擦が生じるから。自分もその摩擦を受けてきて、それが嫌だからって仮面を作って。やっぱり殻の中に閉じこもってしまうっていうのがあるけど。やっぱりハワイ自体がそういうなんか摩擦。民族も多くて、意見の違いっていうのがあんまり摩擦にならないから。日本やアメリカと違ってならないから、そういうところで暮らしていると自ずと、あなるのかなって思って。やっぱり、それと関係してアメリカとか日本とかはそういう、日本とかもなんだかんだ言って、日本人が圧倒的多数で、その中で意見が違うとやっぱり肩身が狭いから摩擦がかかったりするし、アメリカも基本、これはどうか分からないけど。基本、白人至上主義みたいなところあるじゃないですか。やっぱりそういうところで摩擦がかかってきてるんじゃないかなっていうのは感じました。

中川：えーっと、Kの話聞いて色々思ったんですけど。色んな人の話を聞いて色んなことを思いますけど。僕はよく梶形先生って分かります。たまに来てる人いるでしょ。あの人けっこう偉い人なんですよ。来てもらって色々喋るんですけど。哲学をやったはる先生で、僕もある程度哲学はやっていたので、二人で喋っていてよく思うのは、いわゆる普通の哲学をやっていなくて先生と喋ってて、普通哲学をやってなかった先生はこの授業を見て、みんなただ喋ってるだけやねって言うんですよね。たいがいね。僕とか、梶形先生とか一回哲学をやった人間はここに来たらどう思うかっていうと、お前らよーそんなとこまで考えれるなって思うんですよ。この違いはけっこう大きいと思っていて、思想史とかを勉強したら、その話している言葉の意味がどれくらい重いかっていうのが実は分かってくるんですよね。だんだん。で、あるいは過去聞いたことある意見とかっていうのもあるんですけど。それを生きた形で言っている人がいると、ものすごい驚くっていう話があり

ます。で、なんでこんな話をしたかっていうと、他の人の話を、議論を面白くないって思っている自分っていうのが実はいるんですよね。で、だから、これは他の人と関わりながら実は自分の話をしているのかもしれないって思うことがたまにあります。で、その意味で他の人と関わるのはめっちゃ難しいって思っちゃったりしますね。せっかくなんで全員一周は回そうかなって思ってまして。一周回してみます。

L：けっこうみんなが言っていたこととかぶるんですけど。この Thomas Jackson ですか。Thomas Jackson さんは両手離して運転したり、笑うときにゲラゲラ笑ったり、すごいみんなが言っているように子どもみたいで。見てて、癒やされるってわけじゃないけど、こっちも暖かい気持ちになれる人でやっぱりそういう陽気な人がハワイにはいっぱいいて、確かなんか、なんか Thomas Jackson さんも途中でハワイは重力が違うみたいなことを言っていて（中川：Gravity... center of gravity）それがたぶん、その、なんて言うんやろ。重力が違うっていうのは、なんて言うかな。少数派の人たちが、アメリカの本土とかそういう、日本とかと違って、そのマジョリティの人たちが、そのなんて言うかなあ。その大半を占めてるとか、マジョリティの人たちがなんていうかなあ。力を持ってるっていうか。力を及ぼす、権力を持ってるみたいな。ハワイっていうのは Thomas Jackson さんの話を聞いてた限りでは、やっぱり少数派の人たちが自分の意見を生き生きと言えるような環境があると思ってる。そういうことで、重力が違うっていう言葉を使ってたんじゃないかなと僕は思いました。

M：さっきのLの話とは方向が全然違う方向に行っちゃうんですけど。私が一番さっきのビデオを見てた中で気になったのが、えっと途中で言っていた仮面の話にも通ずるものがあるけど。その人の目をちゃんと見てたら、こう生き生きとしてきて、その仮面が取れてくるっていう話をして。それが大人だったら大人でもとれてくるけど、子どもだったらより顕著に表れるっていうのがあって。で、その一つとしてこの円形っていうのがあると思って。こういう風に話してたら一人一人の顔をちゃんと見れるし、そういうのでちゃんと心も開けるし、私のすごい個人的な話なんですけど。このレポートを書くときの問いが、P4C っていうって、子どものための哲学ってあって、哲学難しい印象があるけど、子どもにやらせて何の意味があるのかなって思ったんですけど、そういう風に子どもって発想力も自由で、ちゃんと顔見て心が開いたら色々な話もちゃんとできてっていうのも考えたら、哲学っていうのが真理にちゃんと向かっていくためのっていう風に考えたら、そういう深い話とかもできるから。そういうことをこのビデオを見て、なんとなく分かりました。

N：えーっとL君が重力のことについて言ってたんですけど。それあるなって思って。内容、言っているところかぶるとこもあるんですけど。重力が重いっていうのは、その多数派の意見がすごく強くて、少数派は意見言うことなく、ずっと端っこでちっちゃくなってるっていうようなことを言うと思って、重力が軽いっていうのは少数派がたくさんいて、少数派がたくさん意見を言うから、多数、大きくいるグループのほうはあんまり何も言えないとか、そういう状態じゃないかなと思いました。

O：僕は Thomas Jackson さんがテンションが高くて子どもっぽく見えるのは人生をめちゃくちゃ楽しんでるからだと思って。あの人は他の人から情報を取り入れて、考える力がすごい長けてるし、そんなに我が強いと

うか、自分の意見を通すような、ずっと通すような人じゃないと思うから。他の人の意見を取り入れやすいと思って。普通の人の人生は一番幸せな時とかは、40歳くらいかもしれないけど。あの人はたぶん死ぬ直前が一番幸せじゃないかなと思って。歳とるにつれて色々な情報とか、人が言った言葉とかを取り入れて、それを自分の物とかにしていくから。死ぬ直前が完璧というか、そういう人になるんじゃないかなと思って。その意味では P4C にも生かしてるのかなと思って、今だったらイエス／ノーだったら、イエスのほうだけで言ったりするけど、逆に自分の思ってるのとは逆の意見を言ってみたりしたら、相手の意見もより分かると思うし、議論、意見自体がより深まると思うんで、そういうやり方もあるんじゃないかなと思いました。

P：えっと、大人が仮面を持ってると、さっき言ってたんですけど。子どもも仮面を持ってしまってると思って。さっき、子どもの話をしたので、私も子どもの話をしたいと思うんですけど。子どもでも大人の顔色を窺って、そのように順応しようと、社会に順応しようとする子どももいると思って。だから、子どもがすべて無邪気とかっていうのもどうなのかなって思って。それは個性なのかもしれないなって思って。だから、Thomas Jackson さんは、まだ子どもだとか、子どもの気持ちを忘れないでいるのがすごいって誰かが言ってたけど、それってというのは子どもだからっていうか、個性の域に入るんじゃないかなっていうのを考えたので、P4C が子どものための哲学っていうことで、子どもにする、子どもにさせる意義があるなっていうのも確かに分かるんだけど、少なくとも子どもってというのはただ年齢が低いだけじゃなくって、そのような特徴、個性を持った人だったら、人に適する物であると思うし、そうじゃない人でもそのようになれるっていうのを、映像でもそういう姿が美しいっていうのを、子どものように内面がすべて見えてる姿が美しいっていうのがあったので、そういうのも分かりました。

Q：えっと目の話に戻るんですけど、前なんか本で読んだことがあるんですけど。なんか人って、嘘を、嘘をついているのを話す時って、相手の目を見れないっていうか、斜め上を見たり、斜め左を見たり、下向いたりして、目を見てほんとのこと、嘘のことは目をちゃんと見て話すのが苦手な人が多いみたいなことを本で読んだことがあって、そういうのを考えてみたら（Aのくしゃみで笑いが止まらなくなる）なんで、本当に自分の思っていることを（笑いが止まらない）ほんとに目を見て喋るってというのはなんか、人の目を、なんか嘘は人の目を見て、ちゃんと喋れる人は少ないから自分の思ってることとか自分がすごい相手に言いたいことってというのは相手に話すじゃなくて、相手の目に吸い込んでもらかんじ、なんかこう、がってというのが全体の P4C で、みんなができたなら、話の共有とか相手の気持ちを考えると、相手の気持ちの立場になるとか、っていうのがもっとできて、みんなで一つの話、P4C ができるんじゃないかなって思いました。

R：私は一回ハワイに行ってみたいなって。しばらくハワイで生活してみたいなって思ったんですけど。日本人ってわりと自分を殺して、周りに合わせていく習性があるみたいなことをけっこう聞くんですけど。日本がそういう場所なら、私はあんまり日本から出たことがないんで、少数派の意見がちゃんと通るような場所に一回行って見て、そういうのを体験してみたいなっていうのが感想で、問いがさっきちょっと目の話が出てたんですけど。目を見てたら分かるみたいな。輝いてきてるみたいなことを言ってるけど、それってほんとなのかな

っていうのもちょっとあって。Pさんがさっき言うてくれたけど、仮面でどンドン隠していく人もいるから、隠すのもすごい上手な人もいるから。ほんとにそういうのも全部、目を見るだけで分かるのかなっていうのはちょっと疑問に思いました。

G：僕は一回ハワイに行って、それでさっきの映像を見て思ったのは、やっぱりなんか。どこの場所に行ったって、一分、時っていうのは常に同じだけど、ハワイはなんかゆっくりしてるっていうか。時がゆっくりと流れているような、かんじが映像の感想で。時がゆっくり流れていることが、もしかしたら実際は全部一緒だけど、その雰囲気みたいなのが人の感情とか、人の感情とかが他の所と比べると違って、それがさっきの人みたいに（中川：ああ、Dr.Jね。Dr.Jっていいいます）。Dr.Jみたいに、ちょっと変わった考えに結びつくんじゃないかなと思いました。

S：感想ですよ。ね。（中川：イエス）いやあ、もうなんか。瞳の奥を見て、目が輝いてるとか言うんですけど、たぶん、なんか人ってなんか目の、瞳の奥っていうより、たぶん白目の部分で判断してるって思っ。なんか目が輝いてるっていうのはたぶん、白目の部分が大きく、目を見開くみたいなかんじで、だからなんか楽しいから、なんか目が開くみたいなかんじで。たとえば、めんどくさかったら、そこまでパッと開けるかんじじゃないじゃないですか。なんか、目を細めたり、ああーみたいなかんじで。ちょっと目が閉じて、で、なんかそこらへんで判断してるんじゃないかなって思いました。

T：えっと、その少数。ハワイでは、少数、みんなが少数派。っていうのを聞いて、すごい私安心したっていうのが一番の感想で、去年の四月くらいまでずっと、コロンビアっていう南米の国に住んで、三年間くらい住んでたんですけど。一年目はやっぱ日本と全然違うくて、私が外国人なんだけど、すごい周り外国人で楽しいみたいなのが一年目の感想だったんですけど。二年目になったら、スペイン語を話すんですけど、スペイン語のまだそんなに上達してないし、でも、だんだん言うてること分かってくるんで、一年目は何言われてるか分かってなかったんですけど、二年目になるとすごい、スペイン語で中国人のことをチノっていうんですけど、すごい周りから、日本人とか韓国人とか中国人の区別がつかないんで、すごいチノ、チノ言われて。それがすごい、中国人だみたいなかんじじゃなくて、すごいバカにする意味の言葉だったらしくて、すごい二年目はいやな気持ちしてたんですけど。最後の三年目のときは、なんかもう自分は日本人だし、そんな白人にも黒人にもなれないから、日本人っていうことを誇りに持とうっていう風になんか、なんて言うんだらう、家族の中で決めて、チノって言われたら「いや日本人です」って、その言われる度に言い返すようにしてて、そうやって自分は日本人だから、それは変わらないって認めたら、すごい気が楽になったんで、さっきのハワイの話にも、みんな自分が少数派で、でもそれは別に良いことだって言ってたんで、自分の人種が、自分の人種はもう変えられないから。やっぱそれ誇りにもってたら、少数派の中でもすごい楽しく生きれるっていうのが分かったし、あとなんか、二年、二年目の時に私はすごい周りから言われてるの分かってたから、街で歩いてても、お母さんとか、お父さんとか、兄弟とかと日本語で喋るのがすごい嫌になっちゃって。でも、なんか弟とかと公園に行ったら、弟はもうスペイン語が全然分かんないから、日本語でコロンビア人の子どもに話しかけて。で、

なんか最初は何してんだろって感じだったんですけど、だんだんそれすごいなって思えるようになってきたんで。自身をもつ、少数派でも自信を持つっていうのが、すごい良いことっていうか仮面を作らずに生きていけるコツなんじゃないかなって思いました。

U：動画の中で Thomas さんが目を見たら仮面をはがせるって言ってたんですけど。私はそういうの難しいかなって思ってた。私自身、そんなに自分の素を出して話せる友だちって限られてると思うし、どこかでセーブかけてる自分がいると思うし、友だちだって素で自分に接してくれてるか分かんない。こんなこと言ったらアレかもしれないけど。本当の意味で仮面を剥ぐっていうのは難しいかなって思いました。

V：感想だけになるんですけど。Jackson さんはなんか、変な喩えやけど、カッターナイフみたいな人やなって思ってた。(笑いが起こる) なんでかっていうと、子どもみたいな一面があるって言ってたじゃないですか。おーとか。○△□とか。何言ってんのって。言っていることはすごい、すごいことを言ってるってことなんですけど。あの、なんかなんて言ったらいいか。変な喩えやけど、カッターナイフって刃を出さなければ切れないじゃないですか。出したら切れるじゃないですか。そういうことだと思ってる。さっきのふざけてる状態は刃をしまってる状態で、で、変な話やけど、刃を出したら、さっき言ってたように目を見たら分かるんだよみたいな。おれらに分かりやすく言ってるからだと思うんですけど、すごい、なんて言ったらいいかなあ。楽しそうやけど、けっこう難しいこと考えるなって思ってた。あと一つ思ったのが、すごい子どもみたいに楽しそうにしてるっていう意見があったと思うんですけど、それって偏見じゃないかなって思ってた。目と目を見たら分かるとか、外見なんか関係ないとか言ってたけど。それってけっこうプラトニックな考えであって、たとえばH、オレの目を見てくれ。(笑いが起こる) オレのこと分かる？ けっこう難しいですよ、これって。今は変な喩えやから、何言っとんねんこいつと思われるかもしれないけど。けっこう難しいなと思ってた。子どもみたいな人がプラトニックな考え方をできるかというところ必ずそうだというわけでもないから。生まれたての三歳とかの弟がいる人は分かるかもしれないけど、弟がいる人とか、弟に急においとか言われて、お前、おれはお前のこと嫌いやけど、心は愛してんねん。(笑いが起こる) って言われたら、なんやこいつ、すごいなあってなる。思わないですか。それって本当の子どもやったら、幼稚園でわーっとやってる子どもやったら、先生つかまえて、先生……。 (笑いが起こる) こんなこと言わないと思うんですよ。だから、けっこう大人びた人やけど、子どもじみた人のように見えて、そういう人が友だちとかにおったら、すっごく楽しいんやろうなって思いました。

W：えっと、映像を見て。マイノリティっていう、その個性っていうのは私も正直、やっぱり人とか人種とかを外見で判断しちゃうことがあって、外国人とかいわゆる白人とかは鼻が高いイメージ。そういう特徴みたいなんで捉えてるけど、それはなんかやっぱり周りが判断しやすい形式みたいなもので、前美容院に行ったときに美容師さんは髪の毛がこういう感じだから、あの人はたぶんフランス人だよとか、そういうのが分かるって言ってて。それも一種の外見とか、見た目っていうので何かを判断してるのかなって思ってた。で、アイデンティティっていう、私は日本国民、兵庫県民で。明石市民で、そういう身元っていうのがあるんですけど。そ

れでよく、区別とかしちゃうけど。そういう人が見てきたもの、経験とか人生観とか、それによる価値観とかは、その人しか持っていないものだから。それはやっぱりそういう個性っていうマイノリティにつながると思って。大多数のマジョリティっていうのの中にも、意見はイエス／ノーのイエスのほうが大多数だったとしても、その理由っていうのは各個人で違うと思うから。そういうのは、その中でも少数派っていうのはあると思うから、そういう面ではやっぱりなんかみんな個性なのかなって。目を見つめたらなるって映像で言ってたんですけど。けっこう今までの価値観とか、目で見えてきた経験とかが主になっているから、魂っていうのが一番目に近いものだから、そういう瞳を見たら生き生きしてくるっていうことなのかなって思いました。

X：えっと、あんまり意見まとまってないんですけど。まず、映像の感想は Thomas Jackson さんは、人生楽しそうだなって思って。日本は多数決とかするときには多い方に上げようと思ったり、あまり意見を押しえて、国語の授業、P4C とかでも、あんま意見が賛成だったら、みんなどんどん賛成意見になっていったりして、その、意見が固まってしまうんですけど。ハワイとかだったら少数意見も少数意見で、尊重されるんで何でもできるっていうか、しそうだなって思いました。

I：さっきも喋ったんですけど。色々思ってた、表現力足りないなってすごい思ってたんですけど。さっき子どもの、さっきV君が子どもっぽいっていうのは偏見だって言ってくれたんですけど。それすごい、そうやって思ったんですけど。その子どもだって言ってる、例えば、さっきの喋ってる Thomas Jackson の姿が子どもだっていうのも、さっきその。独断、それも偏見。さっきなんか言ってたと思うんですけど、その外見で判断するっていうのと、それも一緒なんじゃないかなって思って。その、それでまあ、それで、その次の問いになっちゃうんですけど。その子どもって何だろうなってすごい思って。それはとりあえず置いといて、その中でやっぱりなんか、自分の意見をしっかりと持つっていうのも、すごい大切なんやなって思ったし。いろいろ出てきたけど、僕たちが P4C とかやってるけど、正味、人の目を見て喋ってるわけではないっていうのはあると思うんで、P4C のやり方とかについても考え直す必要があるんじゃないかなって思いました。

F：えーまあ、えーJackson さんは、ハワイはアメリカと違って、なんか違うっていうことを言ってたじゃないですか。色んな人たちがハワイに来て住む。その国の特徴が合わさり合って、生まれたものかなって思って。まあ、おれの兄が、兄の同級生の人とかたまに話したりするけど。なんかお前の兄貴はいかれてるって言われるんですけど（笑いが起こる）つまり、全員言うんですよ。同級生の人が。つまり、日本人とはかけ離れてる存在だと。ということで、つまりハワイは、Thomas Jackson さんが言うには、考えが、アメリカの都市、都市のどっかに行った、って言ってましたよね。（中川：オハイオ）オハイオでつまらないって言ってたんで、やっぱりハワイは最高だなって思いました。（笑いが起こる）

E：さっきと言ったこと、違うんですけど。日本では人は多数派のほうに迫っていくじゃないですか。多数派のないハワイに行くと、自分が特別な存在と気づいて、より lively 賑やかに生活していけるんじゃないかと思しますので、ぜひ皆さんは外国に行ってください。